

本社に産業ロボ展示場

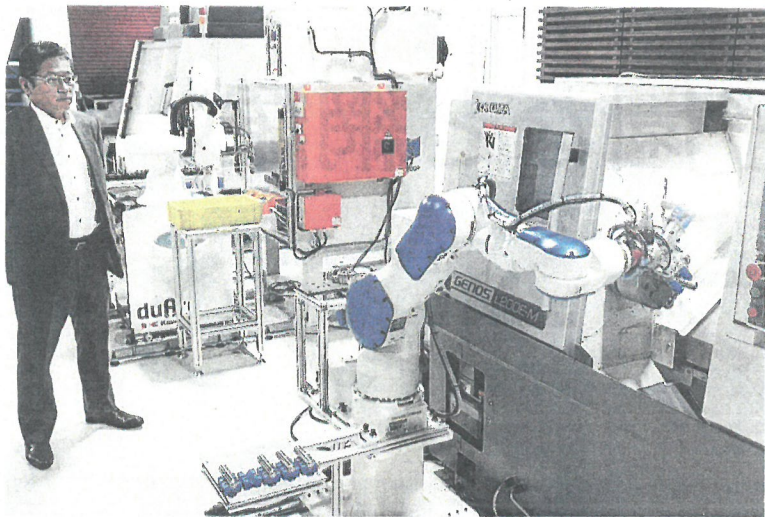
工作機械の専門商社の宮脇機械プラント(明石市)は、工作機械とロボットの展示場「産業用ロボットラボ&シヨールーム」を本社内に開設した。人手不足に苦しむ中小企業の業務効率化

などを手助けするため、機械を動かす際に人が担っている単純作業に焦点を当て、ロボットに代替させる手法を提案していく。

(長尾亮太)

製造現場の自動化後押し 導入方法など紹介

工作機械の宮脇機械プラント



新たな展示場で、工作機械にロボットが材料を取り付ける様子を見守る宮脇機械プラントの岡本淳社長(明石市北王子町)

中小企業 前へ

倉庫にしていた本社1階の約230平方メートルを改装し、機械とロボット計10台を配置した。工作機械などを用いる企業が自社に適し

たロボットの導入方法を学べるほか、取り扱っている材料などを実際に持ち込んで作動状況を確認することもできる。

例えば、油圧プレスや金属の切削加工機を使う際の材料の据え付けや取り外しは人の手で通常行うが、ロボットにさせることが可能になる。かごの中に無造作

に置いてある材料を別のかごに移す作業なども、ロボットに任せて自動化できるという。人の手をロボットに代替させられれば工作機械を夜通し動かすことも可能になり、生産力の向上も図れる。

同社は、小野市で家業の刃物卸を手掛けていた宮脇隆一郎会長(83)が、市場拡大を見込んだ工作機械に商材を切り替えて1966年に創業した。2018年3月期の売上高は58億円、従業員は27人。

展示場では、自動化実績などを紹介する一般企業向けの催しを8月2、3日に開く。岡本淳社長(56)は「ロボットの活用で、貴重なマシナリーを単純作業から別の仕事に振り向けることもできる。顧客がさらなる価値を生み出すお手伝いを通して、工作機械の販売先を広げたい」と話している。